

うおのまち通信

vol. 35
-2025.6-

※「うおのまち通信」は原則、中央地域センター管内の小学校区へ配布しております。

立神でクイズと健康づくり



3月5日（水）、旧立神小学校給食室で立神高齢者サロンが開催され、17人が参加しました。ラジオ体操で体をほぐした後、カタカナ5文字の単語をバラバラにして元の言葉を当てる「文字の並び替えクイズ」を実施。皆で答えを考えながら楽しむ様子が見られ、会場は和やかな雰囲気になりました。「心肺蘇生法の講座を開いてほしい」との声もあることから、いざという時に備えた取り組みとして、今後自治会との連携による開催が検討されています。

いざという時に備えた避難所訓練

3月9日（日）に拠点避難所である南公民館で防災のひろばが開催されました。能登半島地震をはじめとした災害が頻発しているため、拠点避難所の運営の仕方や、自助・共助の大切さについて学びました。避難時に利用できる簡易シャワーと簡易トイレの設置体験も行われ、特にシャワーの設置に一苦勞。協力しながら無事にお湯が出た時には歓声も上がっていました。災害が発生したいざという時に自分たちに何ができるのか、どんな備えが必要なのか考える1日となりました。



開花前夜✳風頭公園桜まつり点灯式



3月22日（土）、風頭公園景観振興会主催で「風頭公園桜まつり点灯式」が開催されました。桜の木にはつばみも多い時期での開催となりましたが、会場には多くの来賓や地域のかたが集まり、春の訪れを喜んでいました。ステージでは、瓊浦高校エイサー・和太鼓部によるエイサー演舞や弾き語りライブ、変面ショーが行われ、盛大に盛り上がりました。桜は日を追うごとに開花し、最終日を迎えた3月30日（日）には、満開の桜が咲き誇っていました。

オリジナルケーキ作りで楽しく交流

4月27日（日）、桜町小学校区内の今博多町、馬町、大井手町、勝山町、出来大工町、古町の6自治会合同の子ども交流会が行われ、幼児から大人まで約50人が参加してケーキ作りを楽しみました。フルーツや生クリームでデコレーションしたり、チョコレートシロップで絵を描いたり、世界に一つだけのオリジナルケーキが出来上がりました。どれも美味しそうなケーキばかり！「また作りたい」「子どもたちも楽しそうでとっても良かった」と皆さん大満足でした。



満開の鹿尾川公園の桜に春を感じた1日

3月30日（日）、満開の桜と青空のもと、戸町地区の鹿尾川公園で「第10回鹿尾川公園桜祭り」が開催されました。当日は絶好のお花見日和で、桜の木の下でシートを広げてごちそうやお酒を楽しむグループや家族連れなど、会場内はたくさんの人たちで賑わいました。ステージイベントでは伝統芸能の上戸町浮立太鼓のほか、戸町中学校吹奏楽部や2人組バンドによる演奏が華を添えました。ステージ外でも自治会の皆さんによる出店などもあり、来場された皆さんは思い思いに春の1日を楽しんで過ごしていました。



アルコールインクアートで交流！！



3月15日（土）に、みらい長崎ココウォークでながさき井戸端パーティーの啓発イベントを行いました。今回は子育てサークル「のあ」に初出展していただき、アルコールインクアートのワークショップを実施しました。会場は開始直後から親子連れなどの多くの来場者で賑わい、色とりどりのインクを使った唯一無二の作品が次々と生まれました。参加者からは「家に飾ります！」「またやりたいです！」という声が多数あがっており、アートを通じて交流ができたイベントとなりました。

1人1人から広まる未来のみんなの長崎～つなげる想い、広がるアイデア～



3月19日（水）「井戸端peopleの輪」を開催しました。「井戸端people」とは市内で様々な交流の場を作り、その情報発信を「ながさき井戸端パーティー」のサイトを活用して行っている人のことです。今回は、井戸端people同士の交流と協働のきっかけづくりを目的として令和5年11月から令和7年3月までに同サイト

で紹介したかたのうち11人が参加しました。「こんなイベントができれば」「コラボするなら」をテーマに意見交換を行い、親子で楽しめる自然体験や、多世代が交わるマルシェなどユニークなアイデアが多数生まれました。参加者からは「様々な団体や人とつながりができてうれしい」という声があがりました。

「ながさき型地域貢献企業」に認定されました



地域活動に貢献する企業等を認定する「ながさき型地域貢献企業等認定制度」。4月末時点で11社が認定されています。浜口町自治会と環境美化活動や防災・災害時の協力、地域行事に関する連携協定を締結している武藤建設（株）が、3月13日（木）に認定されました。



ながさきピース文化祭2025